

総 括

夏期日本語教育ディレクター
田中 和美

2014 年夏期日本語教育 (SCJ) は、東日本大震災以後最多の人数となる 90 名の受講生を迎え、6 週間のプログラムを無事修了することができた。今回は、特別支援を必要とする学生の受け入れを行ったこともあり、学内からの支援を一層受け、連携を強化できた。

今年も SCJ を開催でき、成功裏に終わったことは、学内、学外の多くの方々のご支援がなければできないことであった。ここに心より御礼申し上げます。

1 講師陣

日本語教育課程 (JLP) からの教務主任及びディレクターも授業を持ち、さらに JLP 専任講師が 1 名、JLP 非常勤講師が 3 名加わり、外部からの講師 13 名を迎え、計 19 名の講師陣であった。8 レベルのうち、5 レベルのコースヘッドを JLP 専任もしくは非常勤講師が担当し、安定したプログラムを提供できた。

2 クラス編成およびプレースメント

C1 から C8 まで 8 レベルを開講した。そのうち、C3 のみ 2 セクションとなった。C3 のコーディネーターは 3 名の教員と 2 セクションを率いることとなり、負担が多かった。

受講生のクラス振り分け及び教員配置の補助となるよう、今回もオンライン日本語テスト J-CAT を用いた。受講生には 6 月の決められた時期に J-CAT を受験するように伝達し、その結果は J-CAT からこちらに配信された。昨年より、多くの受講生が受験してくれた。

3 教室、講師室

本館の 2 階の教室を使用し、1 つのフロアに集約した。これは、学生の交流、文化プログラムの周知や実施、全員集合のため役立った。今後も続けたい。

講師室は、昨年同様 ERB2 の JLP 非常勤講師室 2 部屋を充て、ERB2-130 の部屋を授業支援室とし、教務主任の指揮下、授業ヘルパー及び学生アルバイトの教務助手 2 名が鍵の管理、印刷請負、機材の貸し出しなどの業務をこなした。JLP の ERB2-105 を教材作成室として使用し、印刷業務などはここで行った。

4 カリキュラム

JLP のカリキュラム変更に伴い、C4、5、6 は新しい教材を用いた。コースヘッドへはスケジュール、評価方法などを事前に渡し、JLP と同等の水準を保つことができたと思われる。C7 と C8 は JLP の通常学期のシラバスは用いず、コースコーディネーター

が教務主任、ディレクターと相談した上で教材を作成した。また、JLP カリキュラムの総授業時間数に合わせるため、1 コマ 60 分授業とした。

5 文化プログラム

今年も JLP 専任講師が文化プログラム主任を引き受けてくれたので、大変スムーズに運んだ。本館2階では交流が盛んに行われた。週に2回のイベント開催には、希望者が多く、抽選を余儀なくされた。学生アルバイトの文化プログラム助手3名は、受講生たちの日本での経験が充実したものになるよう常に尽力してくれた。また助手たちの考案したイベントもあり、大変好評であった。毎週水曜日の会話パートナーの企画も活発に行われ、日本語学習に役立った。

6 宿舎

今年は銀杏寮を使用した。寮の職員、学生アルバイトの寮ヘルパーのサポートのもと、大きな問題はなく、寮生たちは快適に過ごすことができた。特別支援の受講生も受け入れていただいた。今年から大学の方針に合わせ、ホームステイは業者に委託した結果、20名にホストファミリーを紹介することができ、従来より多くの受講生たちがホームステイを体験できた。

7 看護師

例年同様、期間中常駐の看護師には、大変助けられた。けが、熱中症による不調、アレルギーなどで保健室を訪れた受講生たちがいた。病院への付き添いが12回あったが、大事に至ることなく済んだ。

8 大学との連携

2015年 SCJ から、本学本科生にとって C1 から C7 レベルの SCJ コースが単位化されることとなった。これは過去からの懸案事項であったが、ようやく認められ、事務的な手続き等の話し合いも完了し、在校生に周知した。本学の英語教育プログラムである ELA の夏期留学 SEA プログラムと同様の扱いで、春学期に登録、秋学期に成績付与となる。

昨年の問題点ならびに今回浮上した課題に関しては、多くの方々の協力により大いなる改善がみられた。次に列挙する。

- ① 昨年は、落雷などのためコンピューターに関する危機的状況が一斉休業中にあった。今年コンピューター、機器等の管理、支援を行うヘルプデスクが一斉休業中も開室するというので、安心、安定した学習、教授環境が整った。
- ② ここ数年、通常学期中は学部の授業支援をしている授業ヘルパーに、サマーコースへの勤務をお願いしている。同じ人が連続して入るシフトにしてもらい、より業務効率が上がった。
- ③ 一斉休業中の緊急時の対応が問題となっていたが、第1歩として大学の緊急連絡網の

明確化がなされた。さらに今年は大型台風接近という事態に際し、一斉休業中の休講案内を SCJ オフィスが大学のポータルサイトに掲載するという取り決めがなされた。

- ④印刷環境の整備が課題としてあがった。ネットワークの関係上、外部から来た講師が利用できるプリンターは1台しかなく、それも教材作成室105室のコンピューターにUSBをつないでのことである。そのため始業前は、講師たちの順番待ちとなり、苦情が出ていた。これは、SCJ 予算で SCJ 用のプリンターを購入するということで解決を試みることとなった。しかし、この機器に関しては大学のヘルプデスクのサポートは受けられないため、やや心配は残る。

他方、受講生たちは図書館で印刷することとなっているが、その図書館は週末は閉館、平日の開館時間は9:00～20:00と、限られた時間しか印刷できない。これでは学習に支障が出る。オンラインで課題の提示やフィードバックをし、学習者はその課題や自身のフィードバックをもとに成果物をメール等で提出することが当たり前の時代である。ICU のサマーコースにおいて、そのような ICT 利用の学習が、印刷機の問題でできないことは、残念である。今後に向けた図書館との協議で、2015 年度は土日に関しては通常学期と同様に開館することになったが、平日に関しては変更は難しいということであった。

今後も大学の中での SCJ の位置づけをより明確にし、連携を深めてゆくことで、本学のさらなる発展に寄与できるように、努めていきたい